

# 江戸時代の古文書を読み込み、村社会の仕組みを明らかにする

Navigator

文学部/日本史学専攻

## 山崎 圭 教授

Kei Yamazaki



山崎 圭 (やまざき けい)

1966年3月16日、長野県生まれ。1989年、名古屋大学文学部卒業。1996年、同大学大学院博士後期課程を単位取得退学。文部科学省大学共同利用機関国文学研究資料館史料館助手などを経て、2012年より現職。

### 村の旧家を訪ねて 古文書の調査を行う

高校教科書は政治史が中心で、村や町の具体的な様子については、説明がない。江戸時代(近世)の村社会について、あまりイメージがわかないのが普通かもしれない。山崎先生は、江戸時代の信州(長野県)を主なフィールドに、当時の百姓や地主、役人たちのリアルな姿を追いかけ、先生はどんな方法でその姿に迫るのだろうか。

「かつて名主を勤めたことのあるお宅に史料(古文書等)が残っているケースが多いです。昔ながらの集落、今でも土蔵があるようなお宅ですね。そうしたお宅を訪ね、史料を調査・撮影するところから始まります。文書館や博物館などが所蔵している史料も利用します」

先生は、いきなりお宅を訪ねて頼むわけではない。自治体が発行する市町村史などでそうしたお宅の存在を確かめたり、その町の教育委員会と連絡をとりあったりするなど、事前に準備をするそうだ。

「一軒で数万点の史料が残っている場合もあります。仲間とともに、まず、記録をとりながら史料目録(データベース)を作成します。長野県中野市の旧地主山田家の史料を整理した際には、五年以上の時間を費やしました。この史料目録を利用して研究を進めます」

史料に秘められた膨大な情報的な

かて先生が目にするのは、江戸幕府の直轄領(幕府領)だ。

「幕府領には現地に陣屋(代官所)が置かれ、手代という代官配下の役人が数人詰めて、小さな藩領に匹敵する数万石の領地支配にあたっていました。陣屋に詰める役人が少なくても支配が実現できたのは、支配される側が補助する仕組みがあったからです。陣屋元村の名主が補助を行いましたし、領地の村々も組合村を作って対応しました。」

先生の研究テーマは、つまりこうした江戸時代の村の構造や幕府の支配の仕組みを明らかにすることなのだ。

### これまでの研究関心と 東日本大震災以降の研究

「支配身分である武士が領地支配のすべてを担っていたわけではなく、村々の自治組織が補助することで支配が成り立っていた点が、幕府領の仕組みの面白さ」と山崎先生は語る。時代劇ではまずわからない百姓たちの奮闘ぶりも見られるようだ。

「幕末の慶応二年は凶作で、米価が全国的に高騰し、関東で武州世直し一揆が発生したこともよく知られています。この時期、米穀を調達することは、民衆にとっても、支配権力にとってもたいへん重要なことでした。上田に近い中之条代官所では、陣屋元村の名主等が、北信濃の小布施・中野・飯山にまで出向いて、凶作で厳しい警戒体制がしかれる中、

米穀の調達に努めました」

先生によると、史料(古文書等)から過去の事実を明らかにする歴史研究のあり方に、東日本大震災以降、変化が表れているという。

「震災以前から災害に関する研究は積み重ねられていましたが、それでは十分だったわけではなく、震災後、災害史に対する関心が社会的に高まると、歴史学界でも、人びとが災害等とどのように向き合ってきたかを研究する動きが盛んになりました。」

私も、それ以前は幕府領支配の仕組み等にもっぱら関心を持っていたのですが、最近、そのような仕組みの下で人びとが頻発した災害等の危機をどんな形で乗り切ったのに関心をもつようになりました。そこでこの対応次第で、支配の仕組みにも変更が迫られたのだと考えています」



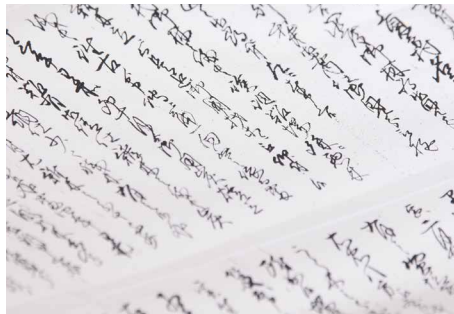
名古屋大学の学生時代に出身地の長野県に研究のフィールドを定め、一貫して江戸時代の信州の村社会を究め続けている。

## 頻繁に洪水を起こした 千曲川の治水史研究に着手

山崎先生には、長野県の中野市教育委員会と共同で進めている研究がある。中野市は市域の中を千曲川が流れており、その洪水被害に長年苦しめられてきた。共同研究は、主に江戸時代以降の史料を発掘し、地域の洪水被害の実態や治水への取り組み等の全貌を探ろうとするものだという。

「千曲川には、中野市の手前で複数の小河川が合流しているため、江戸時代には数年おきと言ってもよくらい頻繁に洪水が発生しました。この洪水を克服するための、地元の人びとによる長い苦闘の歴史があるわけですが、そこには複雑な利害関係がはらまれていました。」

まず、兩岸の村々どうしで激しく争います。川の片側に堤防を築こうとすれば、対岸の村々の危険が高まるので猛烈に反対されるからです。



くずし字で書かれた史料。  
近世は残された文書の量が飛躍的に増加した時代だ。

そこで、対岸側に文句を言われない位置に変更しようとする、今度は、同じ岸の側で不具合を訴える村が出てくるといった状況です。治水は、自然との闘いだけでなく、利害関係者どうしの激しい闘いでもありました。

問題を難しくしたのは、この地域が幕府領と複数の藩領が錯綜している地域だったことです（珍しいことではありません）。江戸時代、異なる領地間の争いは、幕府の『評定所』で扱うことになっていましたから、この地域の人びとは江戸まで出向いて、長期の訴訟に臨まなければなりませんでした」

先生は、「百姓たちの試行錯誤の一つひとつを史料から掘り下げる。そして『災害や飢饉に対して、幕府や藩が、豪農や村が、そして一般の百姓たちが、それぞれどのように取り組んだのかを、現代に通じる問題として考えたい』と語る。

### 史料を極めるシエフのように 史料を究める取り組みを

調べる史料によって、江戸時代の人間関係までもがわかる歴史研究の面白さ。次に山崎先生に、学生の卒業論文のことを訊いてみた。

「卒論のテーマは本人の意志に任せていますので、テーマは村・町もあれば、大名・将軍もあり、女性史・身分論等々、毎年多岐にわたります。將軍徳川家斉・家慶に仕えた『輿絵師』の日記から、二人の將軍の言葉

を拾い上げた学生がいて、將軍の「肉声」が残されていないだけに、面白いことをしているなと感じました」

江戸時代を研究するには、くずし字の史料を読む必要がある（活字の史料集がある場合も一部ある）、一定の習熟が求められる。夏休みのゼミ合宿では、実物の古文書を手にとって読みながら、3・4年生がいつしよに学ぶ機会を設けているという。卒業生には博物館の学芸員が多数いるため、そういった博物館等を訪ねることが多いそうだ。

山崎先生に改めて史料と向き合う研究姿勢について訊いた。

「私はいつも、研究を料理にたとえて『客』ではなく、『シエフ』になれ』と言っています。おいしい料理を前にしたとき、『客』はただ食べて満足するだけです。『シエフ』は材料や調理法を考え、もつとおいしくする方法を必死で模索するはず。歴史研究も、論文を読んで結論をつかんだらハイ終わり、ではなく、その説がどんな根拠（史料）をもとに立論されているか、関連史料はないか別の史料解釈はできないかと次々考えることが重要で、講義でもゼミでもこの点を大切にしています。暗記科目の印象が強いかもしませんが、歴史研究は理詰めの学問です」

自分が取り組みたいテーマを掲げて、史料から過去を浮かび上がらせる。そんな『シエフ』の醍醐味を味わえる研究がここにある。

2014年10月取材当時



## “Close up,”

現在の研究テーマを教えてください  
日本近世村落史、地域史

### ご趣味は？

子供が小さいので趣味にさくような時間はありませんが、家族でドライブしたり、旅先で写真を撮ったりするのが、いまは好きです。

### どんな高校生でしたか？

良くも悪くも自由な校風だったので、2年生まではクラブ活動などに明け暮れ、進学や将来のことは何も考えずに生活していました。3年生になって、我に帰った記憶があります。

### 高校生の頃の夢は？

夢というほどではありませんが、高校教員になりたいと思っていました。父親が教員（高

校数学）だった影響もありました。公務員や会社員には向いていないと思っていました。

### お薦めの本を3冊あげてください

#### 1. 『百姓の力』

渡辺尚志（柏書房）

近世村落史研究の魅力をわかりやすく伝えています。著者の渡辺さんとは様々な場面で研究をともにしてきました。

#### 2. 『村の遊び日』

古川貞雄（農山漁村文化協会）

「遊び日」とは休日のこと。著者の古川さんは、信州各地の史料から近世の休日の様相を明らかにし、村の本質に迫ります。いつかこんな本が書けたらいいと思う一冊です。

#### 3. 『書き替えられた国書』

田代和生（中公新書、品切）

朝鮮出兵の後、江戸時代に日朝関係はどのようにして回復されたのか。その舞台裏を記す一冊。中大OGの著書です。

### 先生にとっての“特別な一冊”は？

#### 『村で病氣とたたかう』

若月俊一（岩波新書 青版）

医学生の本読書といわれたロングセラー。著

者は東京で医学研究をしていたが、戦前の学生運動に挫折して長野県の農村へ行き、地域医療に従事しながら生活改善運動などに取り組んだ。地域社会との向き合い方を考えさせられました。

### 高校生へメッセージ

人であれ、本であれ、出会いが大切です。目から鱗が落ち、心を揺さぶられる貴重な体験をするのは主に高校・大学時代です。ぼんやりと待たず、自ら積極的に踏み出していきましょう。



お薦めの本、印象に残る本も「村落」と結びつく。